

特定非営利活動法人テラ・ルネッサンス  
2012(平成24)年度活動報告

国際協力事業:アジア事業	2012 年度事業決算	13,640,629 円
--------------	-------------	--------------

●地雷埋設地域村落開発プロジェクト【カンボジア】

今年度はバタンバン州カムリエン郡の3村で、村落開発支援を実施。3村は、いずれも提携する地雷撤去団体MAGによって地雷撤去が実施され、村人の生活圏内の地雷は撤去されているが、まだ村の中には地雷原が残っている場所も存在している。このプロジェクトでは、村人たちの自治によって村を発展させ、最貧困層、特に厳しい生活環境におかれている地雷被害者やその家族の生活をサポートしている。

～オッチョンボック村～

■社会保障制度支援

村落開発支援を始めた2008年以来、小規模融資や健康保険の制度を村人たちが運営してきている。2012年度は、村の住民組織に400ドルが貯蓄されている。小規模融資制度では、小規模融資制度を利用した農作物の栽培などで、平均3,557ドルの年間収入を得ており、これは前年の平均収入のほぼ2倍になっている。大きな要因は、天候が安定しており、雨が十分に降ったことにより、作物の栽培がうまくいったことが上げられるが、調査できた村人の32%が生活が向上し、変わらないと答えた人が23%と全体としては、村人たちの生活は向上していると言える。しかし、11%が生活が悪化したと答えており、彼らの多くが土地を持たない農民で、村に仕事がなく、タイへ出稼ぎに行くなど非常に厳しい生活を送っている。制度の運営面では課題が出てきており、それを解決するために村人たちや村長ら、リーダーたちとミーティングを行っている。

■基礎教育支援

村の小学校で、子どもたちとともに清掃活動を実施し、環境美化を啓発するポスターを設置した。

～プレア・プット村～

■社会保障制度支援

プレア・プット村の住民組織では、村長を中心に小規模融資や健康保険の制度を2009年から運営を始め、2012年度は、発熱の治療費のために2家族へ保険が適用された。小規模融資制度での融資を使用した収入は、21%が良い、良くもなく悪くもないが46%、悪いが33%と、はっきりと良い収入が得られた人と、そうでない人の差が表れた。農作物の栽培ができる土地を持つ村人は、いい収入を得られているが、土地をもたない村人で鶏や豚などの家畜の飼育をした村人たちは、多くが失敗している。

鶏は病気に弱く、豚は2012年からそれまで止まっていたタイからの輸入が再開され、大幅に豚肉の価格が下落したことが原因である。この村でも住民組織の制度の運営面での課題が出てきており、それを解決するために村人たちの話を重ねている。

■基礎教育支援

NPO 法人コミュニティ時津からのご寄付で、村の小学校への屋根に雨樋を設置し、建設した貯水タンクに雨水を



伝統衣装製作訓練の様子

貯めることにより、水が使えるようになることで、トイレが使用可能となった。小学校の教員用宿舎を建設した。また、村の子どもたちへ NPO 法人コミュニティ時津より、文房具や衣服が届けられ、さらに、2012 年 3 月に開催したスタディツアーの際にも京都文紙事務用品組合からの文房具を届けた。また、長崎の時津小学校の小学生との手紙の交流を継続している。

#### ■収入向上支援

最貧困層の 2 家族へ養豚支援を実施した。また地雷被害者の子どもを含む 6 名の最貧困層の女性に裁縫技術訓練を実施している。裁縫技術訓練は、洋裁技術の他に、カンボジアの伝統衣装を製作する訓練も実施しており、1年間の訓練終了後に、それぞれの訓練生は、お店を開き、収入を向上させていくことになる。

～ロカブス村～

#### ■社会保障制度支援

2011 年 1 月より支援を開始し、村人たちと村に住民組織を設立し、小規模融資や健康保険の仕組みづくりを実施している。この村では、今までに 225 ドルが住民組織に貯蓄され、6 名の村人の病気の治療費として、それぞれ健康保険が適用された。この村での保険制度は非常によく運営されており、毎月少額資金を回収し、病気や怪我による治療が必要な村人たちに、保険が適用されている。また、小額融資制度では、調査できた家族のうち 37%が良い結果を得られ、残りの 63%が良くもなく、悪くもないと答えている。村人の生活の状況も、少し改善したと答えた村人が 45%、変わらないが 45%、少し悪化したのが 10%と、村全体では少しずつ生活の状況も向上していることがわかれる。

#### ■基礎教育支援

村の小学校に新しく派遣される先生用の宿舎を建設し、宿舎にはソーラーパネルを設置することで、2012 年 10 月から派遣されたこの小学校の教員 1 名と隣村の教員 1 名が居住できるようになった。また、600 冊以上のクメール語の本や辞書などを提供し図書室を設置、水がないために使用されていなかったトイレには、貯水タンクを設置し、雨樋を校舎の屋根に設置することで雨水が使えるようにした。これによりトイレが衛生的に保たれ、壊れていた一部のトイレの屋根も修復した。その他、日本からの文房具の提供、小学校の清掃活動の実施などで、授業が実施されないなどの問題のあった小学校の教育の質も改善されてきている。

#### ■収入向上支援

2011 年 6 月から 2012 年 4 月 10 日まで、約 10 ヶ月間にわたり、女性地雷被害者の現地スタッフ、サムリット・ラウを村へ派遣し、村の貧困層の若い女性 7 名へ裁縫技術訓練を実施した。7 名はそれぞれ自宅で洋裁のお店を開き、安定した収入を確保できるようになっている。

### ●地雷埋設地域小学校建設プロジェクト【カンボジア】

#### ■ブオ・ソククリアチ村小学校建設



洋裁店を開いたチャン・トーンさん



クメール語の絵本を読む子どもたち



洋裁店を開いたチャン・トーンさん

2011年に、バタンバン州バヴェル郡のブオ・ソクリアチ村にて、日本の外務省からの日本NGO連携無償資金協力による小学校建設を実施した。小学校の各教室と教員用宿舎に、セラミック水ろ過器7器を設置することで、各教室や教員たちが、衛生的な水を学校で飲めるようになった。また、継続して幼稚園クラスの教員2名と図書室の司書への給料を提供することで、村の小学校の教育の質の改善を図っている。小学校での清掃活動、教員たちへのサポートとして養豚支援を実施した。

●クメール伝統音楽復興&継承プロジェクト【カンボジア】

2012年10月まで、バタンバン州カムリエン郡のオッチョンボック村にて、トヨタ財団のアジア隣人プログラムの助成金によるプロジェクトを実施した。村の貧困層や地雷被害者らで構成されるクメール伝統音楽楽団は、地域の結婚式で演奏し、その謝礼による収入を得ている。村の小学校では、放課後に村の子どもたちを対象にした伝統楽器のトレーニングが実施され、ジュニア楽団が結成されている。2012年10月以降も、村人たちが中心となり、村の子どもたちへの伝統楽器の演奏技術の継承が実施されている。



ジュニア楽団の練習の様子

●地雷撤去支援プロジェクト【カンボジア】

提携する地雷撤去団体 MAG の新しい機械チーム、掘削機“タント”チームの1年分の運営費を、地雷ゼロ宮崎からの資金とも合わせて提供した。このタントと名付けられた掘削機は、小型で移動しやすく、地雷原での地雷撤去チームの作業をより、効率的に、速くすることが可能になると期待されている。特に地雷撤去作業の中で、危険を伴い、時間がかかる金属探知機によって反応があった地中を掘り返す作業を、この機械を使用することで、より安全にスピードアップできると考えられている。平均で、撤去作業員による手作業での掘削には、1つの反応があった地点でかかる作業は20分～30分であるが、この機械では3分～5分程度と、大幅にスピードがあがる。



掘削する“タント”

●不発弾被害調査【ラオス】

ラオスで最も不発弾被害のひどい県の1つであるシエンクアン県で、不発弾被害の現状調査を実施した。シエンクアン県で活動するNGOや政府機関、病院への訪問調査とともに、不発弾被害者のインタビューをした。これにより、不発弾被害者の現在の状況を把握するとともに、2013年度から現地保健省の一機関であるCOPEが運営するリハビリテーションセンターと提携し、資金がないために実施されてこなかった過去の不発弾被害者のフォローアップ調査へ資金を提供し、実施する予定である。

●不発弾撤去調査【ラオス】

ラオス、シエンクアン県で活動する不発弾撤去団体MAGの活動現場を視察するとともに、2013年度に水道建設事業を実施する予定のカム郡パハーン村の不発弾撤去のニーズを調査した。2013年度にこの村での不発弾撤去の活動費を、カム郡の不発弾撤去を管轄している政府の不発弾撤去団体UXO-Laoへ提供する予定である。

国際協力事業:ウガンダ事業	2012年度事業決算	14,747,472 円
---------------	------------	--------------

## ●ウガンダ北部における元子ども兵社復帰支援プロジェクト

2011年に職業訓練などの社会復帰訓練を終えて、自らの力で収入を得るようになった元子ども兵38名(第5期生)が、収入を安定していけるようにモニタリング活動を行った。その中で、適宜、必要に応じて追加支援または、訓練を行った。現在、全員が安定した生活を送ることができるようになっている。また、ほとんどが近隣住民との相互扶助(助け合い)の活動にも参加し、地域での関係性を改善している。第6期生20名に対しては、下記の活動を行い、2012年12月に施設でのフルタイムの訓練を完了した。その後、2013年1月～3月にかけて、訓練で得た技術を使って自らで収入を得るための計画を策定し、実際に収入を向上するための練習を行っている。

## ■BHN(人間としての基本的なニーズを満たす)支援活動

生活を安定させるために訓練期間中、受益者とその家族の状況に応じて毎月の食費と医療費をクーポンチケットで配布した。そのクーポン券は受益者各自の近くの食料品店、診療所でのみ使えるようテラ・ルネッサンスと契約し、村の診療所で治療が困難な場合は、ラチャー病院(北部地域最大の病院)などに搬送し治療や診療を支援した。また、受益者の家族の状況に応じて家賃や生活必需品の支給なども合わせて行った。なお訓練期間中は毎日給食を施設内で調理し提供した。

## ■能力向上支援活動

受益者が収入向上活動を始めるのに必要な職業技術、識字、計算などの能力を向上するための基礎教育などを行った。職業訓練では、洋裁、手工芸、服飾デザイン、木工大工の4科目を開講し、基礎教育の授業で識字、算数、英語の授業を行った。



【写真】

能力向上支援活動の様子

## ■心理社会支援活動

各受益者個別に悩みやトラウマやその程度も様々であることから、個別カウンセリングとグループでのクラス（ルーツ&シューズ活動：音楽や伝統ダンス、自作ドラマの創作）などを通じた心理社会サポートを行った。同時にアチョリ民族の伝統的な和解メカニズムやことわざを基にした平和教育も行った。また、毎週土曜日に、元少女兵の子ども（6歳～14歳）と、近隣住民の子どもに対しても伝統ダンスや歌、ドラマの授業を開講した。



【写真】心理社会支援活動の様子

## ■収入向上支援活動



小規模ビジネスのクラスを開講し、貯蓄の重要性、ビジネスの基礎的な知識などマイクロクレジットを使って収入向上活動していくために必要な訓練を行った。その後、フルタイムの訓練修了後に、木工大工の用具など収入向上活動に必要な備品や機材をマイクロクレジット（小規模融資）とともに供与し、受益者の収入向上を促進した。また、定期的に個別、グループ別の指導を行ってきた。

【写真】収入向上支援活動を受けて、洋裁のビジネスを開始して収入を得るようになった受益者

## ●不法小型武器問題の啓発活動

ウガンダ国内で不法小型武器問題の啓発活動に取り組む NGO のネットワーク組織である UANSA(ウガンダ小型武器行動ネットワーク)との定期的な情報交換を行った。また、同地域の市民社会のネットワークを強化すること及び、一般市民への小型武器問題の啓発が必要との観点から、UANSA の開催するセミナー、ワークショップ、啓発活動へ資金提供を行った。

### ●コンゴ東部地域における元子ども兵及び紛争被害者支援プロジェクト

同事業では、対象地域 12 ヶ村において受益対象者が、BHN(人間としての基本的なニーズ)を満たすことをめざして、カウンセリングや職業訓練など彼ら、彼女らが衣食住を満たし自立していくことを目的に活動を行っている。最終的に受益者がコミュニティーの住民とともに自立していけるよう今年度は下記の活動を行った。

### ■自給食料を確保するための活動 —食料の安全保障支援—

事業対象地域のカロンゲ区域は、肥沃な土地に恵まれていながら、長年の紛争の影響で住民たちは十分な食料を確保できず、子どもたちの栄養失調は深刻な状況にある。同活動では、対象地域の 12 ヶ村に相互扶助(助け合い)グループを組織し、グループのメンバーが協力して自給食料を安定的に確保することをめざしている。

今年度の活動において、各グループが昨年度の収穫物から種子を確保して、栽培を開始したが、2012 年に入り、治安が悪化し、4 ヶ村のグループは一時的に避難を繰り返さざるを得ない状況となった。以前から活発に活動していた武装勢力(FDLR)に加えて、それに対抗する地元の武装グループ(ライア・ムトンボキ)が子どもを徴兵し、武力闘争を開始したことで、住民への襲撃なども頻繁に行われるような状況に陥った。(住民への襲撃を行っているのは主に FDLR)。

こうした状況を鑑みて、今年度は、武装グループの影響を受けた村の人々が比較的治安の安定している他のグループの村に避難して生活できるように調整しながら活動を継続してきた。

対象地域 12 ヶ村のうち 4 ヶ村(チョロベラ村、ミヒンガ村、マルンデウ村、チギリ村)では、避難を余儀なくされたが、避難先の村のグループ(ルシェニ村、ムレ村、ブシャイ村、テウラムンバ村)に対しての支援を強化することで、自給食料を確保することができた。

避難民を受け入れている村の一つ、ルシェニ村では、芋の生産が販売用に回せるだけの収穫があり、それらを避難してきた他のグループの人々へ分配した。そのため、現金収入は得ることができなかったが、魚の養殖用の「ため池」の整備を進めた。

ブシャイ村でも避難民を受け入れ、自給食料の確保はできており、カッサバの栽培が順調でそれらを避難民に分配すると同時に、少量を販売し現金収入を得ることができた。ただ、この販売に際して、グループ全員で意思疎通が十分できておらず、グループ内で問題になったが、双方の対話を通して問題が解決された。

ミヒンガ村のグループでは、ため池の整備を完了した。また、カッサバやメイズなど栽培も順調に進んでいたが、収穫時期に入ってから武装勢力の戦闘等により治安が悪化し、畑を捨てて避難を強いられた。一方、避難先への緊急の食料援助を行い、避難先グループの助けもあり自給食料は確保することができた。

また、チョロベラ村やマルンデウ村でもカッサバを栽培し始めたが、武装勢力の活動が活発になり、治安悪化により避難せざるを得ない状況になっていた。避難は一時的で、現在は既に地元の村に帰還しているが、避難中は他の村のメンバーらの協力と追加の支援によって衣食住は満たすことができた。

チギリ村も一時的に避難を強いられたが、帰還後、ため池の整備とともに農作物の栽培も順調に進めている。ため池は既に 4 つが完成しており、栽培したカッサバも自給用以上の収穫をすることができた。その後、他のグループからの避難民も受け入れて支援するとともに、余剰作物を販売し現金収入を得ることもできた。その収益でキャベツの種子を購入し、現在、キャベツ栽培も行っている。



【写真(左上)】チギリ村のグループが栽培しているキャベツ畑。一時期、避難を余儀なくされたが、避難先グループの扶助もあり、村に帰還した後は、逆に他の避難民を受け入れ、農作物の栽培を順調に行っている。

【写真(右上)】チギリ村に整備した養殖用のため池

### ■収入源を確保するための活動 —収入向上支援—

同地域では、都市部に出稼ぎに行く以外に現金収入を得る方法は限られており、低賃金で鉱物資源の採掘や日雇い労働に従事する以外は、ほとんど雇用の機会がない。また、こうした収入源は不安定であるだけでなく、不公平な条件で、外部のビジネスマンや富裕層(または武装勢力)に搾取されることにもつながっている。

同活動では、受益者が安定した収入源を確保するために、衣服や家具など地元住民にとってもニーズの高い製品やフェアトレード商品を生産するための技術訓練、その後のフォローアップ(実際の収入向上のためのサポート)を行っている。

今年度、これまで、職業訓練を受けてきた性的暴力を受けた女性に対して、習得した技術を使って収入源を確保するため洋裁店の運営支援を5ヶ所で行った。2012年1月には完成した5つの洋裁店で、近隣に住む5名～10名が一つのグループを作り、共同での洋裁店運営支援を行ってきた。持続的に、収入源が確保できるように、洋裁の資機材の供与とともにそれぞれのグループに店舗管理、小規模ビジネスの運営方法についての助言を行ってきた。

ルシェニ村とブシャイ村近郊に設置した2つの洋裁店では、順調に共同運営して、現在、各自が一日数ドル程度の収入を確保することができるようになっている。また、チギリ村では、一時期、避難を余儀なくされたが、数ヶ月後には、村に戻り、洋裁店を再開し、収入源を確保できるようになっている。一方、マルンデウ村の近隣(チャミヌヌ)に設置したグループは、避難期間が長期になったため、中心街で場所を間借りして洋裁の仕事ができるようにサポートした。現在、地元に戻り、再度、洋裁店の運営に取り組んでいる。

また、ムレ村はタンタル鉱石の産地でもあり、多くが低賃金で採掘作業を行っていたが、ここに設置した洋裁店でも、一日数ドル程度の収入を得ることができるようになっている。(※タンタル鉱石は紛争鉱物として紛争の要因となり、海外の需要に影響を受けながらも外部では高値で取引されているが、現地で採掘作業に従事する人々の収入は、一日1ドルにも満たない)

また、溶接の訓練を完了した元子ども兵たちが収入を得られるように、当会の訓練施設の一部を彼らのビジネスの場として開放している。これまで、近隣住民からの依頼でドアや窓枠、炭ストーブなどの製造、販売、またバイクの修理など、地域住民にとってもニーズの高いサービスや製品を提供することができている。まだ、安定した収入を得ることはできていないが、着実に現金収入の機会にもなっており、地域住民の生活向上にも役立っている。

特に鉄製のドアや窓枠などの製品、またそれらの修理は、武装勢力の襲撃からの身を守るために住民にとっても不可欠なモノであり、サービスとなっている。

以上の訓練後のフォローアップ支援に加えて、職業技術の習得を希望している女性 6 名に対して、6 ヶ月間の洋裁の職業訓練を実施し、全員が子ども服や地元住民が身につける一般的な衣服の製作、修理に必要な技術を身につけることができた。



【写真(左上)】洋裁の技術訓練に励む女性たち

【写真(右上)】鉄製の窓枠の注文を村人から受けて共同で製作する元子ども兵の受益者たち

### ●心理社会的な安定を促す活動 —心理社会支援—

昨年度に引き続き、希望者に対して個別カウンセリングを行った。また、対象地域の村々を訪問した際に、コミュニティ内で差別や偏見など深刻な問題が確認された場合は、村長などコミュニティリーダーと協力してその解決にあたってきた。治安の問題もあり、今年度は地理的に比較的訪問が容易であったルシェニ村の受益者たちへのカウンセリング回数が増えたが、他の村々でも、農業支援や洋裁店の開業支援に合わせて、各村訪問時にカウンセリングの機会を設けた。また、ブシャイ村で生産したカッサバの販売を一部のメンバーらが勝手にを行い、その収益で山羊を購入したことが一因で、受益者間での対立が発生した。これに対し、当事者や他のメンバー、その家族らと話し合い、双方の対話の場を設けて和解を促進した。最終的に両者が「今後はグループ内のルールに従って意思決定すること、及び、問題が発生した際に相互理解につとめること」などを決定し、問題解決がなされた。

昨年に比べれば、過去のトラウマなどに起因すると思われる相談内容は減ってきている一方、治安悪化や避難民の受け入れ等に伴う経済的な負担が、悩みとして多く聞かれた。

### ※「健康を維持するための活動」及び「子どもの権利を守るための活動」について

今年度は、治安悪化に伴い、大規模に他の援助機関から緊急人道援助が行われた。そのため、今年度の「健康を維持するための活動」は、活動の重複を避け、同地域での支援活動全体を円滑に行うために、当会からの直接実施は行わず、カロンゲ区域の現地状況を他機関に情報提供することで、緊急人道援助活動に協力した。

日本	2012年度事業決算	52,097,009 円
----	------------	--------------

## 1. 啓発事業

本会の活動や、取り組んでいる課題(地雷、小型武器、子ども兵)についての啓発活動を、講演やイベントなどの実施を通じて積極的に取り組んだ。

### ●講演

本会職員による講演を行政、企業・団体、教育機関等で計 126 回実施した。主なテーマは、「地雷畑で見た夢(地雷)」、「ぼくは 13 歳 職業、兵士。(子ども兵)」、「こうして僕は世界を変えるために一步を踏み出した(社会起業)」、「東日本大震災復興支援活動(ともつな基金)について」。

### ●主催イベント

テラ・カフェ(開催場所:京都)は 2012 年 11 月を除き、毎月開催した。東京での定期報告会、テラ・スタイル(開催場所:東京)を 2012 年 9 月より、3 回開催した。また、コンゴ、ウガンダ、カンボジアより海外のスタッフを招いた活動報告会(世界会議)を 11 月に、東京、京都で開催した。

04 月 11 日(水) 第 12 回テラ・カフェ (私たちが持つ「子ども兵士」への偏ったイメージ「かわいそうな」子ども兵士? 「アフリカの」子ども兵士?)

05 月 09 日(水) 第 13 回テラ・カフェ (アフリカに戦争がなくなるのは?)

06 月 13 日(水) 第 14 回テラ・カフェ (ラオスについて知ろう! ～ラオスのクラスター爆弾の問題を通して、平和を考える)

06 月 16 日(土) 総会記念イベント (テラ・ルネ 2012 アジアからアフリカ、東北へ)(京都)

07 月 11 日(水) 第 15 回テラ・カフェ (小型武器の最大の被害者は軍人ではない! ? ～小型武器問題の現状と解決方法を考えていこう)

08 月 08 日(水) 第 16 回テラ・カフェ (アフリカのエイズ問題 ～セネガル青年海外協力隊での経験から～)

09 月 12 日(水) 第 1 回テラ・スタイル東京(テラ・ルネッサンス活動説明会)

09 月 19 日(水) 第 17 回テラ・カフェ (ウガンダ事業視察報告会～インターンが見たウガンダと元子ども兵社会復帰プログラム～)

10 月 07 日(日) 大槌復興刺し子プロジェクト感謝祭 (1周年記念イベント・報告)(東京)

10 月 09 日(水) 第 2 回テラ・スタイル東京(テラ・ルネッサンス活動説明会)

10 月 10 日(水) 第 18 回テラ・カフェ (コンゴ民主共和国視察報告)

11 月 10 日(土) テラ・ルネッサンス世界会議 東京大会 (今こそ、ひとに寄り添う勇気を～テラ・ルネッサンスらしい支援のありかたを探る) (東京)

11 月 14 日(水) 第 3 回テラ・スタイル東京(テラ・ルネッサンス活動説明会)

11 月 17 日(土) テラ・ルネッサンス世界会議 京都大会(京都)

12 月 08 日(土) 脳の特性と1枚の文法シートで楽々話せる英会話練習会(講師:井上知 氏)(京都)

12 月 12 日(水) 第 19 回テラ・カフェ (『250000 ～チャイルドソルジャーが見た夢～』上映・報告会)

01 月 09 日(水) 第 20 回テラ・カフェ (ウガンダ北部紛争の背景)

02 月 10 日(日)「こうして僕は世界を変えるために一步を踏み出した」～未来を創るのは自分自身～ (岩手)

02月13日(水) 第21回テラ・カフェ (カンボジアバーチャルスタディツアー)

03月13日(水) 第22回テラ・カフェ (テラ・ルネッサンスでのインターンを通して考えたこと)

03月24日(日) 『ぼくは13歳 職業、兵士。』～テラ・ルネッサンス活動報告会/短編映画『NINJA&SOLDIER』日本初上映～(東京)

### ●各種イベントへの参加

下記イベントに参加し、本会の活動紹介や取り組んでいる課題の啓発などを行った。

06月02日(土)児童労働反対世界デーキャンペーン2012 (主催:アムネスティ日本子どもネットワーク)

06月23日(土)チャリティバドミントン大会(主催:頑張らないバドミントン研究会)

09月09日(日)チャリティバザー(主催:宗教法人松緑神道大和山)

09月16日(日)国際協カステーション(主催:財団法人京都府国際センター)

10月28日(日)京都ヒューマンフェスタ(主催:京都府)

02月02日(土)～03日(日) ワン・ワールド・フェスティバル (主催:ワン・ワールド・フェスティバル実行委員会)

### ●国連小型武器会議への参加

2012年7月に開催された、国連小型武器会議に職員を1名派遣し、会議のサイドイベントなどの出席、及び帰国後の報告を行った。

### ●スタディツアー

下記のとおり、カンボジアでスタディツアーを企画した。参加者は合計6名。

03月24日(日)～03月31日(日) カンボジアスタディツアー6名

### ●インターネット

公式ウェブサイト、鬼丸昌也サイト、ともつな基金サイト、大槌復興刺し子プロジェクトオンラインショップ、公式ブログ(2012年8月1日リニューアル)、カンボジア事務所ブログ、理事長ブログ、職員ブログを運営し、適宜、活動の最新状況を伝えるべく更新作業を行った。動画も制作し、動画サイトへの投稿だけでなく、ウェブサイトに組み込み、配信した。メールマガジン「テラ・ルネニュース」を定期的に発行し、1014名(2013年3月25日現在)の読者に、活動報告、イベント情報などを提供した他、Facebook や Twitter でも告知を行った。

### ●報道

講演やイベントを開催するごとに、プレスリリースを発行し、取り組みが報道されるように努めた。結果、今年度は37件のメディアに掲載された。

#### 【メディア掲載(重複を除く)】

河北新報、東京新聞、KYOTO まちなび、中日新聞 折り込み冊子 SHOPPER、読賣新聞、飛騨経済新聞、毎日新聞、岐阜新聞、テレビ岩手、京都新聞、sesame、三条ラジオカフェ、オレンジページ、マ・シェリ、熊本日新聞 NHK 総合、NHK ラジオ、岩手日報、J-WAVE、沖縄タイムス、NHK ラジオ、東京新聞、朝日新聞

## ●フェロー、インターン、ボランティアの受け入れ

今年度は3つの受け入れ方法で、延べ1人のフェロー、20人のインターン、1人のボランティアを育成した。

テラ・ルネッサンスフェローシップ(※)		1人	
受入実績	継続～03月	社会人	フェロー(国内業務補助担当)

※職員とインターンシップとの中間に立ち、全体業務を円滑に進めていく役割を担う有給非専従職員。

テラ・ルネッサンス 独自受入インターン(半年～1年以上)		昨年度の継続受入 10人 新規受入 10人 計 20人	
受入目的	①長期的に事業にかかわってもらふことで、当会の事業を担う人材を育成する。 ②当会の事業を通じ、「平和な社会」を自ら作り出せる人材を育成する。		
受入実績	継続～05月	同志社大学 4回生	キフ★ブック、広報事業担当
	継続～07月	関西外国語大学 3回生	回収事業担当
	継続～09月	立命館大学 4回生	回収事業担当
	継続～12月	京都府立大学大学院博士課程前期 1回生	支援者サービス担当
	継続～02月	社会人	広報事業担当
	継続～03月	同志社大学 4回生	国内業務補助担当
	継続～03月	京都女子大学 4回生	国内業務補助担当
	継続～03月	大阪女学院大学 6回生	回収事業担当
	04月～03月	大阪女学院大学 4回生	回収事業担当
	継続～継続	神戸大学博士課程前期 1回生	広報事業担当
	継続～継続	龍谷大学 4回生	支援者サービス、イベント担当
	04月～継続	京都嵯峨芸術大学 2回生	広報事業担当
	05月～継続	立命館大学大学院博士課程前期 1回生	広報事業担当
	10月～継続	関西学院大学 1回生	回収事業担当
	01月～継続	社会人	広報、海外事業担当
	01月～継続	社会人	啓発事業担当
	01月～継続	同志社大学 1回生	広報事業担当
	01月～継続	京都大学 2回生	支援者サービス担当
01月～継続	社会人	海外事業担当	
02月～継続	関西大学 4回生	回収事業担当	

## ▼ボランティア

短期労働体験プログラム		1人	
受入目的	①働く現場の体験を通して、次世代のNPO・NGOワーカーを育成する。		
受入実績	09月(1週間)	NPO 法人京田辺シュタイナー学校 11年生(高校2年生)	事務局業務補助担当

## 2. 東日本大震災における、被災者支援「ともつな基金」事業に関する報告

### ●大槌復興刺し子プロジェクト

#### ■プロジェクトの事業方針

2011年8月から運営母体となった本プロジェクトで、「東北地方に根ざした伝統技術『刺し子』を活用した事業を展開し、大槌町を含めた岩手・三陸地方での雇用機会の創出を実現し、地域社会の復興、伝統技術の継承や振興に貢献する」という事業方針のもと、活動を行った。

#### ■プロジェクトの活動

被災地である岩手県大槌町において、主として家族や住居等を失った女性が「刺し子」商品を制作できるように技術講習会を行った。制作された商品を当会が買い取り、インターネット等で販売を行った。毎週開催する「刺し子会」で買い取りを行い、被災された方々がともに作業し、交流する場を提供した。このように、商品制作代金の支払いを通じて生活再建を促進すること、また被災された方々の相互交流を活性化させ、心のケアを図ることを主な目的として活動を行った。また、大槌町在住の人材を非常勤職員として採用し、地元での雇用を創出した。

#### ■プロジェクトの実績

<2013年3月31日時点(累計)>

販売枚数: 24,112枚

売上: 30,382,974円

刺し子さん(※)の人数: 127人

刺し子さん(※)の収入: 12,234,400円 ※刺し子商品を制作する方



ランチョンマット



刺し子会の様子



商品を仕上げる作り手の方々

### ●鬼丸昌也の講演会

2013年2月10日に、大槌町において、理事鬼丸の講演会を行った。「こうして僕は世界を変えるために一步を踏み出した」をテーマに、大槌町の地元の方々や、支援団体の方々計49名に講演を行った。



## ●【IT 事業】

2012 年 10 月から大槌の現地企業に職員が出向し、以下のプロジェクトマネジメントを行っている。

### ■東日本大震災アーカイブ構築に係る運用モデル実証:総務省

総務省「東日本大震災アーカイブ基盤構築事業」の一環として、デジタルアーカイブ構築・運用に関する実証調査を行った。

目的:東日本大震災に関するデジタルアーカイブを構築・運用する際の課題を抽出・検討し、それらを「東日本大震災アーカイブ」構築に反映させるとともに、東日本大震災に関する記録・記憶・資料等を収集・保存・公開する体制整備の推進を図る。

実施方法:被災地において震災関連デジタルアーカイブを構築し、運用モデル実証を実施し、アーカイブ推進に向けた課題を抽出。

実績:総務省と国立国会図書館は、東日本大震災に関するあらゆる記録・教訓を次の世代へ伝え、被災地の復旧・復興事業、今後の防災・減災対策に役立てるために、東日本大震災に関するデジタルデータを一元的に検索・活用できるポータルサイト「国立国会図書館東日本大震災アーカイブ(ひなぎく)」を平成 25 年 3 月 7 日(木)に正式公開した。(テラ・ルネッサンスは岩手県大槌町の担当)

ひなぎく <http://kn.ndl.go.jp/>

期間:2012 年 10 月～2013 年 3 月 実績:現地人材 8 名雇用



データを入力する現地雇用人材

### ■紙の書類電子化事業

概要:紙の書類をデジタルデータに変換する仕事を行うにあたり、現地での求人、マネジメントを行っている。

期間:2012 年 10 月～現在進行中

実績:74 名 (スタッフ 4 名 内職 70 名)

### ■情報共有会

岩手県大槌町で活動している支援団体の情報共有の会を主催し、常時 15～20 団体が参加した。

大槌町内で活動している団体の情報を共有する場所がなかったため、各団体から要請があり声かけから、運営までを行っている。

期間:2012 年 11 月～隔週で実施。

実績:団体間の協働、大槌役場を含めた協働が生まれている。



情報共有会で議題についてグループに別れ話し合う様子

### 3. 組織運営に関する報告

#### ●会員現況(2013年3月末日現在)

正会員 122 名、個人賛助会員 264 名、ジュニア賛助会員 13 名、団体賛助会員 48 団体、ファンクラブ会員 589 名【合計延べ 1036 名・団体】

#### ●協力団体との連携

今年度は 9 団体に加盟し、さまざまな協働事業、キャンペーンなどを実施し、自団体の活動を展開する上で有益な情報を得ることができた。

加盟団体: 特定非営利活動法人関西NGO協議会、地雷廃絶日本キャンペーン、日本小型武器行動ネットワーク、児童労働ネットワーク、ウガンダ小型武器行動ネットワーク、国際小型武器行動ネットワーク、世界子ども兵禁止連盟、京都NGO協議会、グルNGOフォーラム

協働団体:ウガンダ小型武器行動ネットワーク、MAG、GUSCO

#### 体制

##### ●役員(理事、監事)

2012 年度の役員は、次のとおり。(2013 年 3 月 31 日現在)

理事 小川真吾(理事長)、中井隆栄、岡田則子、鬼丸昌也

監事 鯉田勝紀

##### ●組織・運営体制 (2013 年 3 月 31 日現在)

京都事務局 有給専従職員 3 名、インターン 11 名で運営を行った。

大槌復興刺し子プロジェクト事務所 有給専従 2 名、無給専従職員 3 名

ウガンダ事務所 ローカルスタッフ 9 名で運営を行った。

カンボジア事務所 日本人有給職員1名、ローカルスタッフ 7 名で運営を行った。

コンゴ事務所 ローカルスタッフ 6 名で運営を行った。

##### ●受賞

独立行政法人国際交流基金「地球市民賞」